



暑い日が続いていますね。脱水症状にならないように、水分補給をしっかりと体調管理には気をつけましょう。今号では、少し難しくなってきたと感じる2歳児の思いについて、考えてみたいと思います。だんだんと複雑になっていく子どもの思いに気持ちを寄せつつ読んでみて下さい。



★幼児期前半の自我の発達

2歳を過ぎてくると、目の前のことを「する」だけでなく、思い浮かんだイメージをもとに行動するのですが、イメージの世界はまだ不安定です。エピソードを思い浮かべて遊んでいても、次のエピソードを思い浮かべるのにはてがかりが必要になります。そのため、大人や仲間が、エピソードに共感してくれていると楽しいのですが、手がかりがもてないと不安になってきます。指をしゃぶったり、ポーっとする姿も出てしまいます。だから仲間がいて、ともに楽しく遊んでいる場面の方がイメージを思い起こしやすく、仲間同士で動きのマネっかが伝染していきます。ビニールブロックに一列に並んで乗り、「大型バスに乗ります」と遠足に行くシーンが展開されるのも、お互いのイメージが伝染し溶け込むからです。この時期はオウム返しもよく見られ、「アキ、ごめんな」とおもちゃを投げた仲間のことをそのまま取り入れて、ブロックを投げる時に「アキ、ごめんな」と言うなどの姿が見られます。オウム返しは自閉症スペクトラム児だけのものではありません。人形相手に「どうぞ」「ありがとう」と一人二役で遊ぶのも、他者がしていたことを思い浮かべ行動を生み出していくためです。仲間に対して「カシて」「イイよ」と譲る姿も出てきて、泣いている仲間をなぐさめるやさしさも見え始めます。仲間と一体感を感じるようになってきているのです。このように、自分から見える世界に素直に溶け込む「相互模倣」がさかんな時期です。保育者が楽しく動き相互模倣を作り出すと、楽しく参加する子どもが増え、雰囲気盛り上がっていきます。イメージを思い起こしやすい「エビカニたいそう」のハサミのような手がかり

グッズがあると、子どもはより盛り上がります。一方、大人と子どもが1対1で対応する際には、1歳児とは違ったややこしさも出てきます。自分のイメージを行動に移したい2歳児は、大人が勝手に自分のイメージに溶け込んでくることを拒否するようになります。

イメージがまだ不安定であるが故に、大人に侵食され溶け込まれそうだと感じると、自分のイメージを強く打ち出さざるを得なくなるのです。大人から独立した自分を作るほどはイメージがしっかりとしていないけれど、「自分を確立したい」ところの奥で願っているから、自分の立ち位置をどうしても保持したいと踏ん張るのです。いわば「反抗のための反抗」です。



『こどものかわいさに出あう ～乳幼児期の発達基礎講座～』

近藤直子著 クリエイツかもがわ 出版

次回のめだか教室は…

めだか教室①… 9月 9日(火) 9:20~11:15

→ シャボン玉 をします

めだか教室②… 9月30日(火) 9:20~11:15

→ シャボン玉 をします

◎持ってくるもの：水筒・必要に応じて着替え・帽子

※保護者の方も動きやすい服装でお願いします

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。(おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため)
- ・製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください